

科目名	中等教科教育法Ⅰ（英語）		担当教員	西脇 幸太	
単位	2単位	講義区分		ナンバリング	ED1JTM235
期待される学修成果	教科教育 子ども理解				
アクティブ・ラーニングの要素	プレゼンテーション				
実務経験	教諭				
実務経験を生かした授業内容	時代に即した英語の指導ができるよう、高等学校教諭経験を生かして、英語教育の基本的な知識・技能を養成する。理論的な側面に加え高等学校での指導経験を生かした実践的な観点からの考察も行う。				
到達目標及びテーマ	英語科教育に必要な基本的な知識を理解することができる。				
授業の概要	コミュニケーション能力育成に資する英語授業運営の基礎的な力を身につけることを目的とする。様々な英語教授法の特徴および学習指導要領の主旨を十分に理解するために、講義と演習を織り交ぜた形で考えてゆく。模擬授業は、短い時間を設定し、具体的な場面設定をして実施し、反省評価をしながら指導技術の基礎を養う。				

授業計画	
第1回	イントロダクション
第2回	英語授業の成否の鍵・学習者のスタイル
第3回	英語教育の現状と課題
第4回	第1章 英語を学ぶこと、教えること
第5回	第2章 英語の指導目標と内容
第6回	第3章 学習者の要因
第7回	第4章 良い教師の条件
第8回	前半のまとめ
第9回	第5章 言語習得の理論上の諸問題
第10回	第6章 指導法の変遷（1）
第11回	第7章 指導法の変遷（2）
第12回	マイクロティーチング（1）
第13回	マイクロティーチング（2）
第14回	マイクロティーチング（3）
第15回	まとめ

事前学修	2時間	教科書の決められた範囲を熟読する。 模擬授業の準備を進める。
事後学修	2時間	授業の複数を行うとともに、授業で得た知見を基に、授業案・指導法を考案する。 ※英語指導の基盤は英語力にあることは言うまでもない。他の様々な授業を意欲的にこなすとともに、単語学習、英語リスニング訓練といった地道な学習も怠らないこと。
フィードバックの方法	毎回の発表や議論、および模擬授業に対しては、各発表者に対して口頭でフィードバックを行う。また、必要に応じて個別にメールでフィードバックを行う。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
定期試験	70%	知識・理解・論理的な記述
上記以外の試験・平常点評価	30%	授業中の取り組み（ペア／グループワーク・発表・質疑応答）
補足事項	英語教育の方法論を学ぶことは、英語の実用面と並行して行われるべきものです。常に、高度な英語力を身につけるための努力を継続してください。本授業は、時代の要請と共に変わるべきこと（流行）と、変えてはならないこと（不易）のバランスを保ちながら	

展開していきます。骨太の英語教育を実践するためには、自分が教わったように教えればよい、という考えを一度冷静に見つめ直す必要があります。受講生の皆さんには、教授者としての視点と学習者としての視点を併せ持つことのできる利点を生かし、積極的に議論に参加してくれることを期待しています。

教科書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
最新英語科教育法入門	土屋澄男、秋山朝康、大城賢、千葉克裕、望月正道	研究社	978-4-327-37513-3	特になし
参考資料	・小学校学習指導要領解説外国語活動・外国語編 ・中学校学習指導要領解説外国語編 ・高等学校学習指導要領解説外国語編			

科目名	中等教科教育法Ⅰ（英語）		担当教員	伊佐地 恒久	
単位	2単位	講義区分		ナンバリング	FL2CGU301
期待される学修成果					
アクティブラーニングの要素	ディスカッション、ディベート				
実務経験	岐阜県公立高校英語科教諭				
実務経験を生かした授業内容	英語科教育の知識および理論と指導実践を、実務経験に基づき、関連づけながら指導する。				
到達目標及びテーマ	英語科教育に関する知識および理論を、教室での指導とのつながりの中で理解することができる。				
授業の概要	テキスト等により英語科教育の基本的な知識を学ぶとともに、課題等への取り組みを通じて、知識を指導実践と結びつけていく。理論的な内容の一部は、中等教科教育法Ⅱに引き継ぐ。				

授業計画	
第1回	Introduction（授業の概要）
第2回	第1章 英語教育と英語教育学
第3回	第2章 英語の国際化と日本の英語教育
第4回	第3章 学習指導要領
第5回	第4章 学習者
第6回	第5章 英語教員
第7回	第6章 小学校における外国語（英語）活動
第8回	まとめと確認試験（1）
第9回	第7章 英語教授法
第10回	第8章 第二言語習得と英語教育
第11回	第9章 コミュニケーション能力の育成
第12回	第10章 リスニング
第13回	第11章 スピーキング
第14回	第12章 リーディング
第15回	まとめと確認試験（2）

事前学修	2時間	各授業までに当該の章を読み、ポイントをまとめ疑問点を書き出しておく。
事後学修	2時間	授業内容についてわかったことや意見及び疑問点をまとめる。
フィードバックの方法	授業中にコメント及び質問に回答する。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
定期試験	0%	実施しない
レポート	10%	英作文
上記以外の試験・平常点評価	90%	試験、英語スピーチ、平常点
補足事項		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考

新学習指導要領にもとづく英語科教育法	望月昭彦、久保田章、磐崎弘貞、卯城祐司	大修館書店	978-4-469-24621-6	なし
中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 外国語編	文部科学省	開隆堂	978-4-304-05169-2	なし
NEW HPORIZON English Course 1	笠島準一 他	東京書籍	978-4-487-12391-9	なし
NEW HPORIZON English Course 2	笠島準一 他	東京書籍	978-4-487-12392-6	なし
NEW HPORIZON English Course 3	笠島準一 他	東京書籍	978-4-487-12393-3	なし
小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 外国語活動・外国語編	文部科学省	開隆堂	978-4-304-05168-5	なし
参考資料				

科目名	中等教科教育法Ⅱ（英語）		担当教員	西脇 幸太	
単位	2単位	講義区分		ナンバリング	ED2JTM236
期待される学修成果	教科教育 子ども理解				
アクティブ・ラーニングの要素	プレゼンテーション				
実務経験	教諭				
実務経験を生かした授業内容	時代に即した英語の指導ができるよう、高等学校教諭経験を生かして、英語教育の基本的な知識・技能を養成する。理論的な側面に加え高等学校での指導経験を生かした実践的な観点からの考察も行う。				
到達目標及びテーマ	英語科教育に必要な基本的な知識を理解することができる。				
授業の概要	コミュニケーション能力育成に資する英語授業運営の基礎的な力を身につけることを目的とする。発音、文字、語彙、文法指導および4技能5領域の指導法を十分に理解するために、講義と演習を織り交ぜた形で考えてゆく。模擬授業は、短い時間を設定し、具体的な場面設定をして実施し、反省評価をしながら指導技術の基礎を養う。				

授業計画	
第1回	イントロダクション
第2回	第8章 発音の指導
第3回	第9章 文字と綴り字の指導
第4回	第10章 語彙の指導（1）
第5回	第10章 語彙の指導（2）
第6回	第11章 文法の指導（1）
第7回	第11章 文法の指導（2）
第8回	前半のまとめ
第9回	第12章 リスニングの指導
第10回	第13章 スピーキングの指導
第11回	第14章 リーディングの指導
第12回	第15章 ライティングの指導
第13回	マイクロティーチング（1）
第14回	マイクロティーチング（2）
第15回	まとめ

事前学修	2時間	教科書の決められた範囲を熟読する。 模擬授業の準備を進める。
事後学修	2時間	授業の複数を行うとともに、授業で得た知見を基に、授業案・指導法を考案する。 ※英語指導の基盤は英語力にあることは言うまでもない。他の様々な授業を意欲的にこなすとともに、単語学習、英語リスニング訓練といった地道な学習も怠らないこと。
フィードバックの方法	毎回の発表や議論、および模擬授業に対しては、各発表者に対して口頭でフィードバックを行う。また、必要に応じて個別にメールでフィードバックを行う。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
定期試験	70%	知識・理解・論理的な記述
上記以外の試験・平常点評価	30%	授業中の取り組み（ペア／グループワーク・発表・質疑応答）

補足事項	英語教育の方法論を学ぶことは、英語の実用面と並行して行われるべきものです。常に、高度な英語力を身に付けるための努力を継続してください。本授業は、時代の要請と共に変わるべきこと（流行）と、変えてはならないこと（不易）のバランスを保ちながら
------	--

展開していきます。骨太の英語教育を実践するためには、自分が教わったように教えればよい、という考えを一度冷静に見つめ直す必要があります。受講生の皆さんには、教授者としての視点と学習者としての視点を併せ持つことのできる利点を生かし、積極的に議論に参加してくれることを期待しています。

教科書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
最新英語科教育法入門	土屋澄男、秋山朝康、大城賢、千葉克裕、望月正道	研究社	978-4-327-37513-3	特になし
参考資料	<ul style="list-style-type: none">・小学校学習指導要領解説外国語活動・外国語編・中学校学習指導要領解説外国語編・高等学校学習指導要領解説外国語編			

科目名	中等教科教育法Ⅱ（英語）		担当教員	伊佐地 恒久	
単位	2単位	講義区分		ナンバリング	FL2CGU302
期待される学修成果					
アクティブラーニングの要素	ディスカッション、ディベート				
実務経験	岐阜県公立高校英語科教諭				
実務経験を生かした授業内容	テキストの内容と教室での指導を実務経験に基づいて関連付けて指導する。				
到達目標及びテーマ	（１）中学校・高等学校の英語教育に必要な専門的知識を身につけることができる、（２）一時間の授業を組み立てる基礎的な力を身につけることができる。特に、学習指導要領で求められている四技能（五領域）のバランスのとれたコミュニケーション能力の育成に向けた指導への理解を深めることを目標とする。				
授業の概要	テキスト等により英語科教育の基本的な知識を学ぶとともに、実際の授業の組み立て、学習指導案の作成など、理論的裏付けがある指導を実践するための基礎固めを行う。				

授業計画	
第1回	Introduction（授業の概要）
第2回	第13章 ライティング
第3回	第14章 ティーム・ティーチングの指導
第4回	第15章 測定と評価
第5回	第17章 教科書と教材研究
第6回	第19章 語彙と辞書検索指導
第7回	第20章 授業運営
第8回	まとめと試験（１）
第9回	学習指導要領を読む：中学校・高等学校
第10回	学習指導要領に沿った授業の組み立てと指導実践：1 中学校
第11回	学習指導要領に沿った授業の組み立てと指導実践：2 高等学校
第12回	学習指導案の作成：1 中学校
第13回	学習指導案の作成：2 高等学校
第14回	様々な指導法の理論と実践
第15回	まとめと試験（２）

事前学修	2時間	各授業の前までに該当する章を読んでポイントをまとめ、疑問点を明らかにしておく。
事後学修	2時間	授業でわかったこと、意見、疑問点をまとめる。
フィードバックの方法	レポートは授業中にコメントする。評価を付し返却する。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
定期試験	0%	実施しない
レポート	20%	学習指導案
上記以外の試験・平常点評価	80%	試験、英語スピーチ、平常点
補足事項		

教科書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
新学習指導要領にもとづく英語科教育法	望月昭彦 他	大修館書店	978-4469246216	なし
中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 外国語編	文部科学省	開隆堂	978-4-304-05169-2	なし
小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 外国語活動・外国語編	文部科学省	開隆堂	978-4-304-05168-5	なし
NEW HORIZON English Course 1	笠島準一 他	東京書籍	978-4-487-12391-9	なし
NEW HORIZON English Course 2	笠島準一 他	東京書籍	978-4-487-12392-6	なし
NEW HORIZON English Course 3	笠島準一 他	東京書籍	978-4-487-12393-3	なし
参考資料				

科目名	中等教科教育法Ⅲ（英語）		担当教員	西脇 幸太	
単位	2単位	講義区分		ナンバリング	ED2JTM237
期待される学修成果	教科教育 子ども理解				
アクティブ・ラーニングの要素	プレゼンテーション				
実務経験	教諭				
実務経験を生かした授業内容	時代に即した英語の指導ができるよう、高等学校教諭経験を生かして、英語教育の基本的な知識・技能を養成する。理論的な側面に加え高等学校での指導経験を生かした実践的な観点からの考察も行う。				
到達目標及びテーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・英語科教育に必要な基本的な知識を理解することができる。 ・英語指導技術の基礎を習得することができる。 				
授業の概要	コミュニケーション能力育成に資する英語授業運営の基礎的な力を身につけることを目的とし、技能統合型の言語活動の理論と実践を学ぶ。本授業は、講義と演習を織り交ぜた形で展開する。模擬授業は、指導案を作成し、具体的な場面設定をして実施する。反省評価をしながら指導技術の基礎を養う。				

授業計画	
第1回	イントロダクション
第2回	第16章 言語技能を統合した指導（1）
第3回	第16章 言語技能を統合した指導（2）
第4回	第16章 言語技能を統合した指導（3）
第5回	第17章 教材研究と授業の準備
第6回	第18章 授業案の作成と授業の進め方（1）
第7回	第18章 授業案の作成と授業の進め方（2）
第8回	前半のまとめ
第9回	模擬授業（1）
第10回	模擬授業（2）
第11回	模擬授業（3）
第12回	年間指導計画の考え方
第13回	単元指導計画の考え方
第14回	単元指導計画の作成
第15回	まとめ

事前学修	2時間	教科書の決められた範囲を熟読する。 模擬授業の準備を進める。
事後学修	2時間	授業の複数を行うとともに、授業で得た知見を基に、授業案・指導法を考案する。 ※英語指導の基盤は英語力にあることは言うまでもない。他の様々な授業を意欲的にこなすとともに、単語学習、英語リスニング訓練といった地道な学習も怠らないこと。
フィードバックの方法	毎回の発表や議論、および模擬授業に対しては、各発表者に対して口頭でフィードバックを行う。また、必要に応じて個別にメールでフィードバックを行う。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
定期試験	70%	知識・理解・論理的な記述
上記以外の試験・平常点評価	30%	授業中の取り組み（ペア／グループワーク・発表・質疑応答）

補足事項	英語教育の方法論を学ぶことは、英語の実用面と並行して行われるべきものです。常に、高度な英語力を身に付けるための努力を継続してください。本授業は、時代の要請と共に変わるべきこと（流行）と、変えてはならないこと（不易）のバランスを保ちながら展開していきます。骨太の英語教育を実践するためには、自分が教わったように教えればよい、という考えを一度冷静に見つめ直す必要があります。受講生の皆さんには、教授者としての視点と学習者としての視点を併せ持つことのできる利点を生かし、積極的に議論に参加してくれることを期待しています。
------	---

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
最新英語科教育法入門	土屋澄男、秋山朝康、大城賢、千葉克裕、望月正道	研究社	978-4-327-37513-3	特になし
参考資料	・小学校学習指導要領解説外国語活動・外国語編 ・中学校学習指導要領解説外国語編 ・高等学校学習指導要領解説外国語編			

科目名	中等教科教育法Ⅲ（英語）		担当教員	伊佐地 恒久	
単位	2単位	講義区分		ナンバリング	FL3CGU503
期待される学修成果					
アクティブ・ラーニングの要素	プレゼンテーション				
実務経験	岐阜県公立高校英語科教諭				
実務経験を生かした授業内容	模擬授業への指導に実務経験を生かす。				
到達目標及びテーマ	中等教科教育法Ⅰ・Ⅱで身につけた英語教育の理論的・実践的知識を深めるとともに、コミュニケーション能力の育成に重点を置いた理論的な裏づけのある授業を組み立て、指導できるようになることを目標とする。聞く・読む・話す（やり取り・発表）・書くの四技能五領域の言語活動をバランスよく組み込んだ授業計画をたて、実践できるようになることを目指す。				
授業の概要	中等教科教育法Ⅰ・Ⅱで学んだ英語教育の知識・理論をもとに基礎的な実践を深めながら、中学校及び高等学校において四技能五領域のバランスのとれたコミュニケーション能力を育成する授業を展開できる力を養成する。具体的には、中学校英語科学習指導要領、高等学校英語科学習指導要領等をもとに教材研究、教材作成、模擬授業など、実践的な指導を行う。模擬授業は、英語で進めることを基本とする。				

授業計画	
第1回	Introduction (授業の概要)
第2回	学習指導要領と学習指導案について（中等教科教育法Ⅰ・Ⅱで学習した知識の再確認）
第3回	文法指導中心の授業展開
第4回	読解指導中心の授業展開
第5回	Oral Introduction: (文法)：解説と作成
第6回	Oral Introuction：発表と検討
第7回	Pattern Practice及びCommunicative Activities
第8回	まとめと試験（1）
第9回	音読の種類
第10回	模擬授業（文法指導）：1
第11回	模擬授業（文法指導）：2
第12回	模擬授業（文法指導）：3
第13回	模擬授業（文法指導）：4
第14回	模擬授業（文法指導）：5
第15回	まとめと試験（2）

事前学修	2時間	毎回の授業をもとに模擬授業案を考える。
事後学修	2時間	参観した模擬授業に対するコメントをまとめる。
フィードバックの方法	レポートは、授業中にコメントする。評価を付し返却する。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
定期試験	0%	実施しない
レポート	10%	英作文
上記以外の試験・平常点評価	90%	試験、模擬授業、平常点
補足事項		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
NEW HORIZON English Course 1	笠島準一 他	東京書籍	978-4-487-12391-9	なし
NEW HORIZON English Course 2	笠島準一 他	東京書籍	978-4-487-12392-6	なし
NEW HORIZON English Course 3	笠島準一 他	東京書籍	978-4-487-12393-3	なし
中学校学習指導要領解説(平成29年告示)解説	文部科学省	開隆堂	978-4-304-05169-2	なし
参考資料				

科目名	中等教科教育法Ⅳ（英語）		担当教員	西脇 幸太	
単位	2単位	講義区分		ナンバリング	ED3JTM238
期待される学修成果	教科教育 子ども理解				
アクティブラーニングの要素	プレゼンテーション				
実務経験	教諭				
実務経験を生かした授業内容	時代に即した英語の指導ができるよう、高等学校教諭経験を生かして、英語教育の基本的な知識・技能を養成する。理論的な側面に加え高等学校での指導経験を生かした実践的な観点からの考察も行う。				
到達目標及びテーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・英語科教育に必要な基本的な知識を理解することができる。 ・英語指導技術の基礎を習得することができる。 				
授業の概要	コミュニケーション能力育成に資する英語授業運営の基礎的な力を身につけることを目的とし、評価の観点を適切に盛り込んだ授業計画に基づき、授業を行うための理論と実践を学ぶ。本授業は、講義と演習を織り交ぜた形で展開する。模擬授業は、単元指導計画および1時間の指導案を作成して実施する。反省評価をしながら指導技術の基礎を養う。				

授業計画	
第1回	イントロダクション
第2回	第19章 ICTを活用した授業（1）
第3回	第19章 ICTを活用した授業（2）
第4回	第20章 教授・学習形態の多様性（1）
第5回	第20章 教授・学習形態の多様性（2）
第6回	第20章 教授・学習形態の多様性（3）
第7回	第21章 テストと評価（1）
第8回	前半のまとめ
第9回	第21章 テストと評価（2）
第10回	演習：観点別評価を適切に具現化したテストの作成
第11回	第22章 小学校の英語教育
第12回	模擬授業（1）
第13回	模擬授業（2）
第14回	模擬授業（3）
第15回	まとめ

事前学修	2時間	教科書の決められた範囲を熟読する。 模擬授業の準備を進める。
事後学修	2時間	授業の複数を行うとともに、授業で得た知見を基に、授業案・指導法を考案する。 ※英語指導の基盤は英語力にあることは言うまでもない。他の様々な授業を意欲的にこなすとともに、単語学習、英語リスニング訓練といった地道な学習も怠らないこと。
フィードバックの方法	毎回の発表や議論、および模擬授業に対しては、各発表者に対して口頭でフィードバックを行う。また、必要に応じて個別にメールでフィードバックを行う。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
定期試験	70%	知識・理解・論理的な記述
上記以外の試験・平常点評価	30%	授業中の取り組み（ペア／グループワーク・発表・質疑応答）

補足事項	英語教育の方法論を学ぶことは、英語の実用面と並行して行われるべきものです。常に、高度な英語力を身に付けるための努力を継続してください。本授業は、時代の要請と共に変わるべきこと（流行）と、変えてはならないこと（不易）のバランスを保ちながら展開していきます。骨太の英語教育を実践するためには、自分が教わったように教えればよい、という考えを一度冷静に見つめ直す必要があります。受講生の皆さんには、教授者としての視点と学習者としての視点を併せ持つことのできる利点を生かし、積極的に議論に参加してくれることを期待しています。
------	---

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
最新英語科教育法入門	土屋澄男、秋山朝康、大城賢、千葉克裕、望月正道	研究社	978-4-327-37513-3	特になし
参考資料	・小学校学習指導要領解説外国語活動・外国語編 ・中学校学習指導要領解説外国語編 ・高等学校学習指導要領解説外国語編			

科目名	中等教科教育法Ⅳ（英語）		担当教員	伊佐地 恒久	
単位	2単位	講義区分		ナンバリング	FL3CGU504
期待される学修成果					
アクティブラーニングの要素	プレゼンテーション				
実務経験	岐阜県公立高校英語科教諭				
実務経験を生かした授業内容	模擬授業の指導に実務経験を生かす。				
到達目標及びテーマ	中等教科教育法の仕上げの段階として、英語教育の理論的な裏付けのある、コミュニケーション能力を育成できる授業を組み立てられる力をさらに伸ばすことを目指す。模擬授業は英語で進めることを基本とする。				
授業の概要	中等教科教育法Ⅰ～Ⅲで得た中学・高校の英語教育についての知識・理論を基にして、四技能五領域のバランスの取れたコミュニケーション能力の育成のための指導実践ができるようにする。教育実習に向け、中学校英語科学習指導要領、高等学校英語科学習指導要領をもとに、教材研究、教材作成、模擬授業などを行う。模擬授業は、英語で進めることを基本とする。				

授業計画	
第1回	Introduction (授業の概要)
第2回	学習指導要領と学習指導案について（中等教科教育法Ⅰ・Ⅱで学習した知識の再確認）
第3回	文法指導中心の授業展開
第4回	読解指導中心の授業委展開
第5回	Oral Introduction（読解）：：解説と作成
第6回	Oral Introuction：発表と検討
第7回	内容理解の進め方：Fisrt Reading
第8回	まとめと試験（1）
第9回	内容理解の進め方：Second Reading
第10回	模擬授業（読解）：1
第11回	模擬授業（読解）：2
第12回	模擬授業（読解）：3
第13回	模擬授業（読解）：4
第14回	模擬授業（読解）：5
第15回	まとめと試験（2）

事前学修	2時間	毎時間の授業を踏まえて模擬授業の発表に向けて、学習指導案を作成し、準備を進める。
事後学修	2時間	参観した模擬授業へのコメントをまとめ、良かった点、改善すべき点を整理する。
フィードバックの方法	レポートは授業中にコメントする。評価を付し授業中に返却する。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
定期試験	0％	実施しない
上記以外の試験・平常点評価	100％	試験、模擬授業、平常点
補足事項		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考

NEW HORIZON English Course 1	笠島準一 他	東京書籍	978-4-487-12391-9	なし
NEW HORIZON English Course 2	笠島準一 他	東京書籍	978-4-487-12392-6	なし
NEW HORIZON English Course 3	笠島準一 他	東京書籍	978-4-487-12393-3	なし
中学校学習指導要領(平成29 年告示)解説 外国語編	文部科学省	開隆堂	978-4-304-05169-2	なし
参考資料				